

●里山展 16日～21日 記帳者148名 入会者1名 スタッフ延30名 木津川の草花 どんな川2冊

農園部会、絵画部会、植物部会、環境部会、地域力部会が積極的に一年間の取り組みの発表をしました。多くの皆さんにお越しいただき、ありがとうございました。“記帳はちょっと”と辞退される方も多数おいでになりました。正面に掲げた竹蛇籠の実物モデルが、かなり迫力があって、目を引きました。竹の伐採作業の苦労や、竹蛇籠の編上げに180人の皆さんが二日間にわたってお越しになった講習会、引き続き設置のために7mの竹蛇籠をトラックによる運搬、そして台船に乗せて竹蛇籠を対岸に運ぶ川渡し、そして人海戦術による玉石の詰め込みを説明しました。また木津川生育植物の標本冊子の写真集についての、すごい努力の結晶についても納得していただけたのではないかと思います。やはり里山の会の展示作品には、それぞれに長年の苦労が伴っているので、丁寧な解説があって初めてご理解いただけるのです。お聞きになって山城地域の川や山について、やましる里山の会の作品を通じて環境への関心をきっと、深めていただけたのではないかと思います。

●京都府地域力再生プロジェクト発表交流会 19日 ルビノ

2015年度の交付金受給団体がそれぞれの事業を発表して、交流を深める場として開催されました。代表的な事業内容の説明があって、質問などで深めあうスケジュールでした。残念ながら発表にスピードがなく要点がわかりにくく、理解しあうところまでは到達できませんでした。里山の会が参考にできるような発表には出会えませんでした。皆さんは大きいところで20～30人のグループのようでした。かなりの団体は一ケタという集団のように見受けられました。そして社会貢献や地域への貢献から見れば小規模な活動でしたが綿密で丁寧な取り組みも中に見られました。

●里山農園 通路整備 22日コース決定

地域力再生プロジェクト事業申請は①竹蛇籠の製作講習会の実施、②木津川の植物調査と写真撮影と標本化、③オオムラサキ調査観察会の開催と観察台の新設と通路の整備が主な内容でした。そのうち通路の整備が最後の作業となっています。まずコースの確認を行って、作業に着手しました。かなり傾斜のきつい斜面での道づくりなので雨天ともなれば、危険が伴いますので、20日21日の作業は中止して、22日にコースの確認やルートの決定を行い、整備場所にロープを張り巡らして、掘削を開始しました。頂上部分から下りてくると順調に進展するのですが、ルートの確定が不十分なので、頂部分に最短のコースを選んで下手からの着手となりました。17号地の通路の整備を進めながら、右からの登頂ルートに取り掛かりました。ルートには落ち葉がずっしりと積もり地中には細い根が縦横に伸びて、太い根も入り交り、なかなか思うように掘削が進められませんでした。約2時間を3人の悪戦苦闘で、ルートの貫通はできました。この日の作業は4人で何とかコースの輪郭が整いました。23日は急斜面の草の刈取り除去とコースの拡幅を取組み、笹竹などの除去もできました。24日には平坦な路に伐採後放置された竹の整頓に取り掛かりました。ここが整備されると完成に近づきます。少しずつ道幅の拡幅を進め、最後に案内ロープを張って、3月20日が完成目標日です。

間もなく里山農園周遊道の完成で、四季折々を楽しめる観察コースが実現します。案内マップづくりのお手伝いに来てください。新春から作り初めましょう。

●琵琶湖・淀川流域連携交流会 10周年フォーラム 21日

初日の20日は墨染ダムやインクラインの見学、御香宮、竜馬館 酒蔵や酒造会社を巡りました。そして四季彩館で交流を図り、宿泊研修でも理解が深められました。約30人のご参加がありました。翌日の21日は京都大学の防災研究所で近畿地方整備局から「河川行政の今日」という基調報告をいただき、大阪奈良滋賀京都などからの代表報告を聞きました。午後には参加者のうち17団体から活動報告や川自慢があって大いに見分を深めあいました。この日は会場が満席になるなど60人以上の出席がありました。10周年にふさわしい発表内容で、琵琶湖・淀川流域圏交流会として役割をしっかりと果たすことができた取り組みでした。

木津川から大阪までの苦労が続いたカヌーで下ろうという取り組みに代表される連携を目指す企画、ごみ清掃をする団体のまとめ冊子等コツコツと積上げた成果が大きく効果を発揮したのではないかと思います。この成功を土台に新しい出発にふさわしい成功でした。

●第20回自然と講演会 3月5日

ここにきて講演者とやっと連絡がつき開催要項が整いました。ここ数年台風の襲来と大型化、降雨の激しさや水害の発生土砂災害等かなり異常気象に影響する発生が目立っています。地球温暖化もかなり影響しているのではないのでしょうか。この立場から全国で六カ所での温暖化測定地点での活動から見える報告をお願いしています。これまでの講演会とは一味違った講演会なので、ぜひご参加ください。併せて昨年度の古来工法による自然にやさしい竹蛇籠の製作とその効果についてもお話をいただきます。又都大学生諸君から卒業論文や修士論文にまとめられたものを発表いただきます。耳新しいお話にも魅力があります。竹門先生からは、「木津川の現状とこれからの河川行政」に関わるお話がいただけます。期待してお越しください。

●イノシシを捕獲しました

農園周囲に5つの檻が仕掛けられていますが、農園の開墾が始まった直後小型の捕獲があつて以後、数年間、農園周囲でも行動跡は見られましたが本格的に設置した檻では、はじめての出来事でした。80 kgの雄でした。今年になって農園の防護柵の下を掘って進入され、補強をおこないっていますが直接の作物被害は発生していません。また繁殖頭数がかなり増加しているのではないかと思います。今年もタケノコへの被害が大きくなるのではと予想されます。

●3月の予定

●カスミサンショウウオ観察会 3月12日

里山の会が普賢寺の谷でカスミサンショウウオの卵囊を発見したのは2007年でした。その後木津川市鹿背山2011年に発見しました。その後京都府では絶滅の恐れのある生き物としてレンリソウやフナバラソウに加えてカスミサンショウウオも加えて25種が指定されました。里山の会はその保全団体と指定されています。今回は何とかして、その生育を再確認できればと意欲をもって取り組みます。前日の11日は桜谷先生が事前調査に取り組んでいただくことになっています。意欲と興味を思っていた皆さんの積極的な参加をお待ちしています。ぜひご協力ください。10時に里山農園集合と予定しています。

●関西元気発表会 3月14日（国交省近畿地方整備局主催）

昨年に引き続き参加発表（発表の申込み締切2月22日）を申請しました。書類審査で発表団体が決定されます。里山の会は①竹蛇籠の講習会の実施と設置の紹介、そして②里山農園でのオオムラサキ観察棟の設置と産卵撮影の二点で申し入れました。

●2015年度第4回理事会 3月25日

2015年度は近年まれに見る大きな成果の一年でした。理事会ではこの振り返りを土台にさらに次年度の躍進を目指す活動方針を確立する提案を作成します。結成以来20を迎えています。今、日本では高齢化社会と言われますが、里山の会も例外ではなく、会員メンバーの多くも高齢化が目立って、退会者の続落があり200人会員を割り込もうかという状況になっています。活動実績のすばらしさに比較して会員メンバーの減少を食い止められるかが最大の課題です。名案があればぜひご提案をお願いします。

第20回 自然と環境講演会 ご案内

参加者募集

参加費無料

今日の異常気象は地球温暖化によるものでしょうか？ 日本全国で6か所のCO2の測点のうち木津川市山城町に一つが設置されています。その観測点の主任さんのお話をお聞きます。現場のお話に期待が高まっています。

会場 さんさん山城（田辺警察署南側 京田辺郵便局向い）

演題 地球温暖化と森林の役割

講師 小南裕志 氏

国立研究開発法人 森林総合研究所
関西支所森林環境研究グループ長

講師 竹門康弘 氏 京都大学准教授 「蛇籠設置と水生生物」
報告 ○○○○ 氏 京都大学院修士論文 「木津川の生き物と竹蛇籠」
報告 ○○○○ 氏 京都大学4回業論文 「木津川に鮎の遡上」の取組
報告 福井波恵 氏 カセンレンジャー

3月5日（土）13時00分—16時30分

聴覚障害者就労支援センター さんさん山城

先着順 40名

問合せ NPO 法人やましろ里山会 京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183

主催 NPO 法人やましろ里山の会